

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第5回会議 県北地区部会（概要）

1 日 時

令和4年10月6日（木） 13：30～16：00

2 場 所

大館国際情報学院高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 7名

○事務局（高校教育課） 8名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・各地区に一つは学校が必要であるということで、意見がだいたい一致したのではないか。生徒数が少ない学校の存続も認めることによって、各地区に1つの高校が維持できるのかと考えたところである。
- ・進学を中心校について、今の現状から見ても、いずれは5学級程度に減らさざるを得ないのではないかと思う。
- ・この先少子化が進んでいく状況であれば、進学を中心校については、1学級のクラスの子生徒定員を減らし、6学級を保つ方法もあるのではないか。そうすることによって、より密度の高い学習ができるのではないか。
- ・1学級当たりの定員数を減らすことによって教員の配置数が減るかもしれない。そうなったとしても、生徒が充実した教育活動を受けられるよう、外部人材等を活用したサポート体制を構築するなどの、いろいろな方法を検討してはどうか。
- ・大学ではオンライン授業というのが当たり前に行われている。高校でも、必要に応じてオンライン授業が併用できるような環境を整備していくべきではないかと感じている。
- ・統合せざるを得ない時は、それぞれの学校の歴史を引き継ぐとともに、できるだけそれぞれの学校の特徴や良さを生かしていくことが、地域の方々に一番理解されやすいのではないか。
- ・今は地区ごとの統合、地区の中での統合を考えているが、今後は地区を越えた同じ学科間で、ICTを活用した連携というのにも考える必要があるのではないか。例えば、ものづくりに特化した学校においては、授業だけでなく、製作などの場面でもオンラインでの連携の可能性を検討すべきである。

- ・通信制課程におけるスクーリング指導を、もう少し近い場所で受けられるような工夫を検討していかなければならない。
- ・自分の地元ではないところに一歩踏み出すのは、大人でもすごく勇気がいることである。小学校の子どもたちが地区を越えて県立中学校へ進学するためには、それを上回るだけの魅力がなくてはならない。学校の更なる魅力化を図り、その魅力をもっと全面的にアピールしていかなければ、他地区からの進学者を増やしていくのはなかなか難しい。